

高齢社会をよくする山梨の会

新田治江さん、竹川紀子さん

総人口に対して65歳以上の人口が占める割合を高齢化率と言います。世界保健機構（WHO）の定義では、高齢化率が7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「高齢社会」、21%を超えた社会を「超高齢社会」としています。平成23年の調査では日本は23.1%となり、世界でも類を見ない状況です。「高齢社会をよくする山梨の会」は、この状況を見据えて組織された団体です。代表の新田治江さんと副代表の竹川紀子さんにお話をうかがいました。

はじめに会の発足について教えてください。

新田 私たちの会の本部である「高齢社会をよくする女性の会」は昭和57年の設立です。発起人は、みなさんご存じの評論家樋口恵子さんです（以下、樋口理事長）。

すべての生命の尊厳と輝きを保持する社会をめざして設立されました。本部は東京都新宿区にあるマンションが事務所になっています。

私たちの「高齢社会をよくする山梨の会」がスタートしたのは、本部設立から8年後の平成2年です。会の発起人は県議会議員であった宮沢栄子さん（故人）ですが、議員活動が多忙であったため、初代会長はぴゅあ総合元館長の古屋利津子さんがつとめました。女性の自立はもとより男性の自立も問いながら、住民自身による地域福祉をめざして山梨のよき高齢社会をつくるために会を設立しました。

竹川 名称を「女性の会」ではなく、「山梨の会」としたのは、発足当初は男性の協力者も大勢いましたし、男女がともに活躍する意思を込めたのではないのでしょうか。男性会員は少なくなりましたが、高齢者問題に発足時から熱心に取り組まれていた甲州リハビリテーション病院の島津寿秀先生には現在も顧問としてご尽力いただいています。

かつての活動拠点は、県ボランティアセンターでしたが、現在は会員の多くが居住する山梨市の街の駅やまなしを利用しています。私も山梨市ですが、10年ほど前に会員のの方に学習会に誘っていただいたことがきっかけでした。

ふだんはどのような活動をされていますか。



新田治江さん（左）、竹川紀子さん（右）

新田 まず年10回程度の運営委員会で活動計画を検討します。また知識を深める機会として、春は講師を招き学習会、秋は親睦研修会のほか、全国各地で開催される全国大会など本部主催事業にも出来る限り参加しています。

本部では、赤穂浪士の吉良邸討ち入りがあった12月14日前後に、「歳末東京名物／女たちの討ち入りシンポ」を20年余にわたり行っています。認知症や介護保険など高齢者が抱える課題やさまざまな社会問題についてみんなで考え、政府に対する要望や想いを記した紙をもって舞台にあがり、「エイエイオー」の時の声をあげ、気持ちをひとつにします。戦後70年を迎えた昨年は、「戦後70年 老いて女たちはいま恋するように平和を愛す！」をテーマに、会員自身の戦中戦後体験を語りあいました。こうして声を上げ、語りかけることが出来るのは、その時代を生きた高齢者だけです。たいへん有意義なシンポになりました。

そのほか年一回の会報の発行や加盟する山梨県女性団体協議会（以下、女団協）での活動、山梨県主催の「男女共同参画推進フォーラム」やぴゅあ総合の「ぴゅあ総合フェスタ」などにも参加しています。

そしてこの夏、「高齢社会をよくする女性の会 全国大会 in 山梨」が開催されました。

新田 全国大会は毎年開催されていますが、昨年は新潟県長岡市、今年の山梨大会は35回目でした。「全国大会を山梨で」という希望は、平成24年から機会があるたびに本部へ伝えていました。山梨の会は会員30名程の小さな組織です。その私たちが全国大会を開催したいと声をあげた

ことを、不安に思った方もいたかも知れません。それでも私たちの熱意をくみ取っていただき、25年の暮れに開催決定をいただきました。

年が明けて26年早々、県健康長寿推進課や県立大学など県関係部署に協力をお願いに歩きました。県から「全面的にバックアップしますよ」と、背中を押していただけたことはたいへん心強かったですし、その後の周知活動にも弾みが付きました。行政からサポートの約束をいただいたあと、女団協に協力をお願いしました。女団協には36団体が加盟しており、教育・国際交流、生活・健康・福祉、労働、地域活動の5部会に分かれて活動しています。私たちは健康福祉部会で活動していますが、私たちの会が女団協に協力いただいて全国大会が出来たら、他の活動団体にとっても影響は大きいのではと考えました。将来、別の団体が活動を広めたいと希望を持った時、こうした経験が活きるのではと思いました。

女団協の総会では、みなさんに「この全国大会は山梨のためになる！」と協力を仰ぎ、了承いただきました。牛奥女団協会長に実行委員長をお願いし、女団協メンバーと協力者で実行委員会を組織して山梨の女性たちが創る大会を目指しました。

当日は盛会だったようですね。

新田 8月27日（土）、甲府富士屋ホテルに県内外から1200名余の方々をお迎えし、「高齢者の元気が社会を変える」をテーマに開催しました。

牛奥実行委員長による歓迎の挨拶と本部を代表して樋口理事長にお話をいただいたあと、『鼎談』を行いました。コーディネーターは樋口理事長にお願いし、前厚生労働省老健局長の三浦公嗣さん、山梨県副知事の新井ゆたかさん、牛奥実行委員長に、高齢社会へのそれぞれの思いなどを語っていただきました。

新井副知事からは、山梨が健康寿命日本一になったことにふれ、この荣誉に甘んじることなく、地域の見守りや助け合いなど地域の力を社会全体の力に拡げていきたいとの意気込みをいただきました。牛奥委員長からは山梨の女性団体の活動の様子や抱えている課題を説明いただきました。また三浦前老健局長には、今後も高齢社会が進むなかで、家族が担う役割と介護保険制度などの公的サービスのあり方についてお話いただきました。最後にコーディネーターの樋口理事長から、高齢者とその家族は頑張ることを求められがちだが、「どうか頑張るすぎないで」と言ってあげることも大事ではとお話いただきました。

午後の記念講演は、元検事でさわやか福祉財団会長の堀

田力さんに、「自分を生かせば社会が変わる」と題してお話いただきました。堀田さんはロッキード事件を担当するなど検事として辣腕をふるわれた方ですが、若い頃、地方検察庁検事として山梨に赴任された時期があるそうです。赴任中に経験した山梨の葬儀の進め方にたいへん感心され、同じ地域に暮らす人たちの強い絆を感じたそうです。

堀田さんは高齢者の生き方や地域のつながりといったお話を中心に、いくつかの具体例をあげて話されました。東日本大震災のこと、先日亡くなられた登山家の田部井淳子さんのこと。それぞれの話が興味深く、また励みになりました。

竹川 講演終了後、本部からアドバイスをいただいたセッション方式での発表、討議を行いました。それぞれのセッションのテーマは、第一セッション「幸せな老い」、第二セッション「めげない女の人生100年プラン」、第三セッション「女がつなぐ人生100年コミュニティ」でした。

なかでも私たちが特に嬉しかったのは、第一セッション「幸せな老い」に参加してくれた県立大学看護学部の学生さんたちです。セッションの最後には、「山梨の高齢者の皆さん、わたしたちに任せてください！」と力強いエールをいただきました。会場の皆さんもたいへん心強く思ったのではないのでしょうか。

新田 フィナーレでは樋口理事長、堀田さんと関係者一同が登壇し、討ち入りシンポ同様、それぞれの思いをしたためた短冊を披露

しました。客席からは大きな拍手をいただき幕を閉じました。本当に素敵な時間をいただきました。

最後に会のこれからについてお話しください。

新田 今大会のテーマでもありますが、「高齢者の元気が社会を変える」、その思いを持ち続けて高齢者すべての尊厳と輝きを保持する社会をめざして学習していきたいと思っています。今大会を通じて、山梨の会のことを知ったという方が大勢いました。男女を問わず、そうした方々に声をかけ、ともに活動いただけるメンバーを増やしたいと考えています。老いは男女を問わず誰にでもやってきます。私たちの活動は男女共同参画の活動でもあります。

竹川 今回の経験はたいへん大きかったと思いますが、これが実現出来たのも、樋口理事長の知名度、実績、多彩な講師陣、そして女団協の方々はじめ、「幸せな老い」に向け学習しようという意欲を持った仲間がいたからこそです。ぜひ、私たちの仲間になって一緒に学習していただけたいと思います。



山梨大会フィナーレ